

# 平成30年度第2回習志野市介護保険運営協議会 会議録

日時：平成30年10月18日（木）

午後1時30分～3時

会場：市庁舎1階会議室

## 次 第

1. 開 会
2. 部長挨拶
3. 議 題
  - 【審議事項】
  - (1) 地域包括支援センター（高齢者相談センター）の業務委託について
  - 【報告事項】
  - (1) 平成29年度介護保険特別会計の決算状況について
  - (2) 平成29年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）の収支決算と運営状況について
  - (3) 平成30年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）評価について
  - (4) 認知症初期集中支援チームの活動状況について
  - (5) 地域密着型サービス事業者の指定・廃止について
  - (6) 居宅介護支援事業者の更新について
4. その他
5. 閉 会

## 配布資料

- 審議事項 (1) 地域包括支援センター（高齢者相談センター）の業務委託について
- 報告事項 (1) 平成29年度介護保険特別会計の決算状況について
- 報告事項 (2) 平成29年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）の収支決算と運営状況について
- 報告事項 (3) 平成30年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）評価について
- 報告事項 (4) 認知症初期集中支援チームの活動状況について
- 報告事項 (5) 地域密着型サービス事業者の指定・廃止について
- 報告事項 (6) 居宅介護支援事業者の更新について

### 出席者（敬称略）

会 長・・・櫛方絢子

副会長・・・栗原弘章

委 員・・・松崎弘子、郷右近初女、田所喜美子、戸田孝史、矢作郁江、越智桂、  
桑原経子、池田由理子、高橋君枝

事務局・・・菅原（健康福祉部長）、松岡（健康福祉部次長）、村山（健康福祉政策課長）、  
海老原（高齢者支援課長）、中村（晴）（高齢者支援課主幹）、上原（介護保険課長）、  
伊藤（高齢者支援課）、本山（高齢者支援課）、佐藤（介護保険課）、  
本多（介護保険課）、高橋（な）（介護保険課）

### 欠席者（敬称略）

委 員・・・鏡諭、諏訪さゆり、羽生昌弘

## 1 開 会

○会長より開会挨拶

会 長・・・平成30年度第2回介護保険運営協議会を開会する。

鏡委員、諏訪委員、羽生委員について欠席する旨事前に連絡を受けている。

本協議会の会議は、過半数の委員の出席により開催する事ができることになっており、本日は、委員14名中過半数の委員の出席があるので、会議が成立している。併せて傍聴希望者は1名であることをご報告申し上げます。

また、現任の委員での会議は今回が最終である。会議の終わりに皆様のご意見や感想を伺って、次の3年間に繋げていければ良いと思っている。

## 2 部長挨拶

○部 長・・・部長挨拶

## 3 議 題

審議事項（1）地域包括支援センター（高齢者相談センター）の業務委託について

○事務局より資料「審議事項（1）」に沿って「地域包括支援センター（高齢者相談センター）の業務委託について」説明

会 長・・・何か質問や意見はあるか。

（ 質 問 ・ 意 見 な し ）

この議題については承認でよいか。

（ 承 認 ）

報告事項（1）平成29年度介護保険特別会計の決算状況について

○事務局より、資料「報告事項（1）」に沿って「平成29年度介護保険特別会計の決算状況について」説明

会 長・・・何か質問や意見はあるか。

副 会 長・・・決算収入の部分において、収納率が99.3%ということは大変高い数字だと思っているが、やはり一部収納できていない状況に対しての対応、補填の仕方、また収納で

きない方がどういった状況にあるのかという傾向が分かれば教えてほしい。

事務局・・・収納率が高いのは特別徴収（年金からの天引き）であるということだが、中には特別徴収ができず、普通徴収で納めていただいている方もいるため、収納率が100%には満たない。まず、未納、滞納があると督促状や催告書を出して納付を促す。それでも未納額が増えてしまう方に対しては、徴収部門である税制課の職員と介護保険課の職員が自宅に訪問して、どういった状況であるのかということを知ろうとしている。やはり未納の方というのは、事業に失敗してお金がなかったり、生活困窮であるなどして、支払いが難しい方が多いと認識している。

副会長・・・どうしても支払ができないという方もいると思うので、そうした方たちになるべく配慮していただける政策をとることが可能であれば、習志野市民にとってより優しい介護保険になると思う。

会長・・・他に何か意見はあるか。

（ 質問・意見なし ）

報告事項（2）平成29年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）の収支決算と運営状況について

○事務局より、資料「報告事項（2）」に沿って「平成29年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）の収支決算と運営状況について」説明

会長・・・何か質問や意見はあるか。

高橋委員・・・収支決算の概要の部分の枠外に、※1として「職員の体調不良によりサポートの職員を配置した」とあるがどういうことか。また、収入というのは最初の委託費にあたるのか。加えて、収支差額の部分でマイナスとプラスがあるが、その詳細を教えてください。最後に、地域ケア会議は何回以上やるといった指示が市からあるのか、もしくは各高齢者相談センターに任せているのか。内容については各高齢者相談センターでどのようなことをしているのか。

事務局・・・最初に、※1の「職員の体調不良により、三職種の勤務体制を確保するためにサポートの職員を配置したため」という部分について、こちらは谷津高齢者相談センターになるのだが、職員が体調不良ということで休暇に入った。その際に代替の職員を配置したが、休暇中の職員にも人件費が発生しているということで、その分だけ赤字の決算となって

いる。続いて、収入については、地域包括支援センターの運営、認知症地域支援推進事業、第2層生活支援コーディネーターは委託という形になるので、市から委託費として支払いをしている。介護予防ケアマネジメント事業については、プランを立てるのでプラン料の収入であり、事業者収入ということになる。地域ケア会議については、習志野市から年間何回開催してくださいという依頼はしていない。ただ、地域の課題等を把握して、困難ケースについては関係者が集まり支援方法を決定する重要な会議として考えており、今回の運営方針の中でも必要であるとして位置付けている。実際の内容は、決算の冊子32ページの最下部「3）地域ケア会議の開催」に記載がある。1つ目の個別ケア会議では、個別の困難ケースに対して個別ケアの支援内容の検討をしている。合計開催回数10回、延べ参加人数83人である。2つ目の圏域の地域ケア会議については、個別ケースの課題分析、地域課題の検討、地域包括支援ネットワークの構築のために開催された会議である。開催回数は14回、延べ参加人数は404人である。3つ目の包括ケア会議は、地域包括支援センターの主任ケアマネジャーが主催しており、市内の介護支援専門員を対象にした資質向上に資するための研修会である。開催回数は3回、延べ参加人数は163人となっている。

松岡次長・・・補足として、決算のところで説明があったが、地域包括支援センター運営、認知症地域支援推進員事業、第2層生活支援コーディネーターの3つの項目については、それぞれ収入の欄は市が委託費として払っている部分である。表を見て分かるように、認知症地域支援推進員事業と第2層生活支援コーディネーターは人件費ということになる。先ほどの※印の部分については、1人体調不良でサポートが入ったために今回はたまたまマイナスになってしまったということである。介護予防ケアマネジメントはプランを作成した際の介護報酬が入ってきたというものである。同様に、指定介護予防支援事業も事業を行い介護報酬が入り、事業所ごとに人材の配置などの人件費等の支出があり、黒字になったり赤字になったりするということである。

高橋委員・・・マイナスになっている所が全体収支の中であるが、それは市から後で補填してあげられるものなのか少し心配だが、いかがか。

事務局・・・赤字については市からの補填はない。

会 長・・・他に何か質問や意見はあるか。

( 質問・意見なし )

報告事項（３）平成３０年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）評価について

○事務局より、資料「報告事項（３）」に沿って「平成３０年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）評価について」説明

会 長・・・何か質問や意見はあるか。

（ 質問・意見なし ）

報告事項（４）認知症初期集中支援チームの活動状況について

○事務局より、資料「報告事項（４）」に沿って「認知症初期集中支援チームの活動状況について」説明

会 長・・・何か質問や意見はあるか。

田所委員・・・支援チームは７名の編成であるということだが、一緒に行動を共にするのか、それとも自分の担当で手分けして関わるのか。

事 務 局・・・支援チームのメンバーは７名いるが、動くときは４名で動く。医師、看護師、理学療法士と作業療法士のどちらか、社会福祉士と介護福祉士のどちらかの４名体制で動く。

田所委員・・・４名を調整するのが大変だと思う。

事 務 局・・・医師会に委託しており、現状、医師は１名の先生が担当しているのだが、残りの看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士はケアセンターに委託をしており、同じフロアにいるメンバーとなる。しかし、日々の業務をしながらのこちらの業務になるので調整の大変さはあるかもしれない。

越智委員・・・事例では７名を対象に活動した実績があるということだが、近隣市や人口規模で比較すると７名というのは多いのか、少ないのか。

事 務 局・・・初期集中支援チームというものは支援対象者が決められている。ただ、計画から見て実績については少なめと考えており、この事業を効果的に利用するための周知方法、特に認知症の方に関わるようなケアマネジャー、サービス事業者などにこの事業を知ってもらい、効果的に利用してもらうことが大事と考えている。

越智委員・・・潜在している対象者はまだいるという認識ですか。

事務局・・・その部分も検証しなければならないが、認知症で困っている方、治療に結びつかない方はいると思っている。

越智委員・・・事業をしっかり継続して行ってほしい。

戸田委員・・・地域や包括支援センターが、医者に行くように説得しても、なかなか家族が動かず医者に行かない人に対して、医者がそちらに出向きましょうということなので、そのような対象者はまだまだ多いと思う。どのように宣伝、周知して、家族、地域、地域包括支援センター、医療と一緒に介護保険の認定やサービスが受けられるような環境を創っていくかということ。とても難しいことだと思う。

高橋委員・・・今の戸田委員がお話しいただいたところだが、4ページのaのアイウエの部分で、対象者の中には高齢者相談センターで対応できるものもあるのかもしれない。しかし、bの対応に苦慮している者というのが、最も事業の対象になってくる方になるのではないかと思うがいかがか。

事務局・・・おっしゃるとおり高齢者相談センターでまず相談を受け、その中で解決できることもある。しかしながら、解決が難しいもの、特に症例にもあるとおり問題行動が多い方についてはなかなか医療やサービスに結びつかないというところで、支援チームが動くということになる。

戸田委員・・・国は介護離職をなくそうと働きかけているが、実際には私の知り合いでも、子が離職して対応している人もいる。社会的に対応しようということだが、現実には難しい部分がある。

会長・・・ご本人の気持ちもあるし、難しい部分である。  
他に何か質問や意見はあるか。

( 質問・意見なし )

報告事項(5) 地域密着型サービス事業者の指定・廃止について

○事務局より、資料「報告事項(5)」に沿って「地域密着型サービス事業者の指定・廃止について」

## 説明

会 長・・・何か質問や意見はあるか。

( 質問・意見なし )

### 報告事項(6) 居宅介護支援事業者の更新について

○事務局より、資料「報告事項(6)」に沿って「居宅介護支援事業者の更新について」説明

会 長・・・何か質問や意見はあるか。

( 質問・意見なし )

## 4 その他

○事務局より連絡事項

現委員の皆様にご集まっていたいただき会議は今回が最後となる。これまで大変貴重なご意見を賜ったこと、また、昨年度は計画策定年で内容、回数的にもお力添えを賜ったこと厚くお礼申し上げます。なお、次回は新しく委嘱させていただき委員の方々に参加いただき、平成31年2月14日(木)午後1時半から開催する予定になっている。

会 長・・・ありがとうございました。このメンバーでの最後の運営協議会になるので最後に皆様から1分程度お言葉をいただきたい。

副 会 長・・・先ほど隣で介護認定審査会が行われていたが、私も入っており、審査会委員は5名である。医師会から14名、歯科医師会から10名、薬剤師会6名、介護福祉関連の方20名の合議体という形で介護度の審査をしている。審査会に参加させていただいて、市民の介護保険を利用される方々のベースとなると、いつもきちんと取り組んでいるつもりだが、この運営協議会に参加させていただいて、その他の事業がとても多いことに改めて気づかされた。私も地域ケア会議に参加したことがあるが、それらも介護保険の中に組み込まれて、習志野市がそのことを把握して、それぞれの事業者、関係者が取り組むことが重要だということを改めて認識することができた。

高橋委員・・・民生委員としても地域の全てが把握できていないわけではない。自分がいろいろな情報を知り、いろいろな引き出しを持っているということで、それを市民に提供し、行政



に繋げていくことができるのかなと思っている。もっともっと自分も勉強していかなくてはいけないといつも思っている。

戸田委員・・・介護保険の様々なことに関わらせていただいているが、世の中の動きの方が速すぎる。施設を回っていても、利用者は不満を抱えている、スタッフとしては背負いきれないという状況を見ていると、この先、どう解決できるのかと感じる。昨今、介護保険が中心になって看取りをしていくというのが高齢者の生き方になってきている。在宅を中心にとのことだが、最後の看取りを個人で対応できるのか。在宅で頑張ってきて、難しくなってきた時に特養には入れないとなると、有料老人ホームに入るしかない。有料老人ホームの運営やサービスに対する監視が置き去りになっているのではないかと。国や行政として有料老人ホームをチェックしなければならない時期にきているのではないかと感じる。

矢作委員・・・高齢者相談員をしているが、今はプライバシーの問題があり、簡単に訪問することができない。行政から教えてもらわない限りは訪問できないので、外から様子を伺うしかない。介護相談員も兼ねているが、施設に入ってしまうとどんどん悪くなってしまっているのではないかと心配である。特に特養というのは家と変わらない接し方ということなのだが、デイサービスのようにもう少し楽しい場所であつたらいいなと、訪問するたびに思う。なるべく在宅がいいとは思いますが、実際には在宅というのは難しいということも考えなければいけないと思う。

越智委員・・・この会議に出席し、介護保険のことが益々分からなくなったような気がする。限られた予算の中で、今日報告いただいたようなことを目配りしないといけないので、担当部署の方々は大変かと思うが、時代の要求でもあるので、最良とは言わないが、ベターなものを見つけて、習志野市民が安心した老後を送れるようにしていただきたいと思っている。

桑原委員・・・運営協議会の中で介護保険の他に、地域を耕す地域包括支援センターのサービスがなかなか住民の方に届いていないというご意見も多数いただき、私も地域包括支援センターの職員と席を並べていて、職員の苦労もよく分かり、また、地域の皆様の隔靴搔痒な部分も大変分かる。自分も高齢者の立場なので、これから先は大変な時代だと感じている。限られた予算の中で、増えていく高齢者を支えていくためには、今のシステムをより強固に、そして網の目を細かくしていくことによってしか、高齢者の生活を支えていくことはできないのではないかと感じている。

田所委員・・・運営協議会に出席して、大変なお金が動いていることを実感した。今後、一番必要なのは楽しみながら介護予防すること。市でも様々な政策をしていただいている。あじ

さいクラブや地域のサロンなどどんどん活用して、なるべく家からでること、家から出ると楽しいということを是非PRしてほしい。この頃、地域包括支援センターという名称は浸透してきたようだが、地域に地域包括支援センターがあることを大きくPRしてもらえるとありがたい。

郷右近委員・・・前任者から替わり、今年2回目ということで出席させていただいた。保健所で受け持っている精神障がいの患者さんや難病の患者さんで、介護保険を利用して在宅の療養をしている方も大変多い。訪問看護を受けながら、家族も大変努力なさって頑張っておられると感じているところである。先日、保健所で精神の障がいにも対応した地域包括ケア会議を開催した。先ほど介護離職の話があったが、8050問題、80代の親の介護を50代の子がするということだが、そのようなご家庭を見ていて、経済の部分も含めて、どのように生活をされているのかと思うことも多々ある。介護保険は在宅だけでなく施設も含めて自分で選択してより幸せな状態で暮らしましょう、ということで始まった制度である。運営していく中で課題もあるが、皆様とまた協力をし合っていきたい。この仕事をしていても介護保険については、よく分からないところがある。もし私が自分でケアプランを立てるとしたら、どうやって工夫できるだろうかと考える。介護予防をどのように市民の方に周知していけるか、元気で暮らすためにはどうしたらいいか、というところを予防の入り口にしたいと思っている。

松崎委員・・・3年間委員をさせていただいたが、介護保険は難しく、説明を聞いているのがやっとだった。たまたま運営協議会に携わったおかげで、周囲のものを見る目が変わり、多少なりともいろいろなものに目を通すようになったことが良かったと思う。知り合いが連れ合いを亡くされて、子どももない、隣近所とも付き合いがなく、どうしたらいいのだろうという時に、ゆうゆう館を紹介した。その方がそこに行かれることで、地域包括支援センターが開催しているオレンジテラスにも誘われ、公民館のてんとうむし体操にも誘われて、顔を出す所が増えたことで、とても明るくなった。ちょっとしたことだが、少しでも役に立てたと思えることが3年間で1つあり、良かったと思っている。

池田委員・・・介護給付費や介護申請数の増加率が全てプラスになっているというところを見ると、やはり高齢者人口が増えているという実感をした。次回から、第2層生活支援コーディネーターの具体的な活動事例の資料を追加していただけると良いと思う。介護離職や有料老人ホームの話があったが、特養や有料老人ホームでは金銭面の問題、在宅であればマンパワーの問題がある。今後は、介護予防によって自宅で自分のことができる状態の方をどれだけ増やしていけるかが大切になってくると感じた。

## 5 閉 会

会 長・・・この介護保険運営協議会に3年間お付き合いいただき、ご協力感謝している。それぞれが様々な立場で身近に市民を見ており、介護保険に大変近い方々だと思っている。広い意味の介護保険を全部理解することは難しいが、1人1人が身近な方にお声掛けをして、皆さんに利用していただけたら良いのではないかと考えている。困った時は地域包括支援センターがあると一言伝えられれば良いし、自分たちのできる立場で協力をしていければ良いと考えている。世代として80から90代はまだ良いと思っている。50代の子が世話をしてくれている。しかし、その50代の子は結婚していない方が多くて、その方たちがどうなるのだろうと心配だ。結婚や女性の出産など社会問題になっているが、社会のサイクルとして介護にかかりきりで結婚出産ができないとなると悪循環になってしまう。明るい社会にするためにも介護保険を上手に利用できれば良いと思う。やはり介護予防が一番大切だ。皆で理解し合い、協力しながら、介護保険が少しでも良くなっていけばと思っている。本当にありがとうございました。